

● 日本及びその周辺での主な地震活動

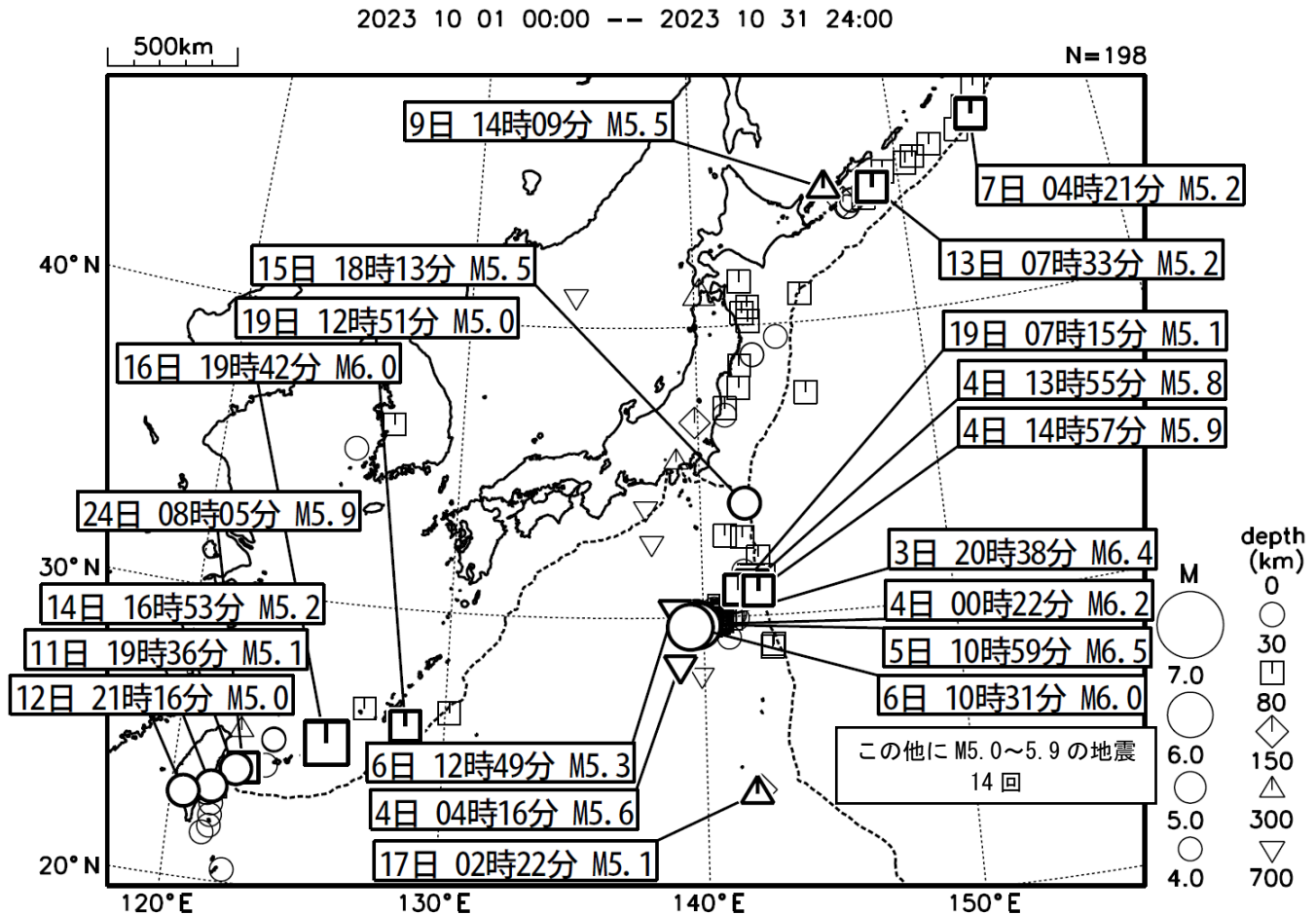


図1 令和5年10月に日本及びその周辺で発生したM4.0以上の地震の震央分布図

（図中に日時分、マグニチュードを付した地震はM5.0以上の地震、またはM4.0以上で最大震度5弱以上を観測した地震である。）

鳥島近海（鳥島から南西に約100km）では、10月2日から9日にかけて、M6.0以上の地震が4回発生するなど、地震活動が活発になった。5日10時59分には深さ10km（CMT解による）でM6.5の地震（震度1以上を観測した地点はなし）が発生し、気象庁は津波注意報を発表した。この地震により、伊豆諸島の八丈島八重根で0.2mの津波を観測した。また、6日10時31分にはM6.0の地震（震度1以上を観測した地点はなし）が発生し、伊豆諸島の八丈島八重根で0.2mなど、八丈島及び鹿児島県で津波を観測した。さらに、これらの地震の震源付近では、9日04時頃から06時台にかけて、規模が小さいうちに地震波のP相及びS相が不明瞭なため震源が決まらないものも含めて地震が多発した。このため、気象庁では地震及び津波の監視を強化していたところ、八丈島八重根で津波を観測したことから、津波注意報を発表した。この地震活動により、八丈島八重根で0.7mなど、伊豆諸島、小笠原諸島及び千葉県から沖縄県にかけての太平洋沿岸で津波を観測した。

10月16日19時42分に宮古島近海の深さ17km（CMT解による）でM6.0の地震が発生し、気象庁は緊急地震速報（警報）を発表した。この地震により、沖縄県宮古島市で震度4を観測したほか、沖縄本島から西表島にかけて震度3～1を観測した。

令和5年（2023年）10月に日本国内で震度4以上を観測した地震は1回（9月は4回）、日本及びその周辺で発生したM4.0以上の地震の回数は198回（9月は93回）であった（図1）。

10月中に発生した主な地震を表1、震度1以上を観測した地震の震央を図2、M4.0以上の地震の震央を図3、震度4以上を観測した地震の震度分布図を図4に示す。10月中に震度5弱以上を観測した地震はなく、津波を観測した地震は3回であった（9月は震度5弱以上を観測した地震及び津波を観測した地震はなかった）。

令和5年10月 地震・火山月報（防災編）

表1 令和5年10月に日本及びその周辺で発生した主な地震（注1）（注2）（注3）

No.	震源時 月 日 時 分	震央地名	M	M _w (注4)	M H S T (注5)	最大震度・被害状況等（注6）	掲載 ページ
1	10 3 20 38	鳥島近海	6.4	6.0	M . . .	1：東京都 小笠原村父島西町 小笠原村父島三日月山 など1都3地点	48～66
	10 4 0 22	鳥島近海	6.2	6.0	M . . .	震度1以上を観測した地点はなし	
	10 5 10 59	鳥島近海	6.5	6.1	M . . T	震度1以上を観測した地点はなし 津波注意報を伊豆諸島に発表 津波観測：八丈島八重根で0.2m（注7）の津波を観測	
	10 6 10 31	鳥島近海	6.0	6.3	M . . T	震度1以上を観測した地点はなし 津波予報（若干の海面変動）を伊豆諸島及び小笠原諸島に発表 津波観測：八丈島八重根で0.2m（注7）など、八丈島及び鹿児島県で津波を観測	
	10 9 04時頃から06時台	鳥島近海	-	-	. . . T	T相（注8）によると考えられる震度（震度2～1）を観測 津波注意報を千葉県九十九里・外房、千葉県内房、伊豆諸島、小笠原諸島、高知県、宮崎県、鹿児島県東部、種子島・屋久島地方及び奄美群島・トカラ列島に発表 津波観測：八丈島八重根で0.7m（注7）など、伊豆諸島、小笠原諸島及び千葉県から沖縄県にかけての太平洋沿岸で津波を観測	
2	10 16 19 42	宮古島近海	6.0	5.7	M . S .	4：沖縄県 宮古島市下地＊ 緊急地震速報（警報）を発表	4、13
3	10 24 8 5	与那国島近海	5.9	5.9		3：沖縄県 与那国町久部良 与那国町役場＊	14
4		石川県能登地方の地震活動				2020年12月から続く石川県能登地方の地震活動の中で発生した地震 2023年10月中に震度1以上を観測する地震が10回（震度2：2回、震度1：8回） （注9）	9

- （注1）主な地震とは、図1の領域内で発生した①M6.0以上、②震度4以上、③内陸 M4.5以上かつ震度3、④海域 M5.0以上かつ震度3、⑤その他注目した地震を指す。
- （注2）震源時、震央地名、マグニチュードは再調査後、修正することがある。
- （注3）空欄については、複数の地震による活動のため、記載していない場合がある。
- （注4）M_w欄の「-」はM_wが求められていないことを示す。
- （注5）M H S Tの各項目について、M:M6.0以上の地震、H:被害を伴った地震、S:震度4以上を観測した地震、T:津波を観測した地震、として該当項目にそれぞれの記号を記した。
- （注6）最大震度の観測点名にある＊印は地方公共団体もしくは国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点であることを表す。被害状況について出典の記載がないものは総務省消防庁による。
- （注7）津波の観測値は後日の精査により変更される場合がある。
- （注8）地震波が海底面で音波に変換され海中を伝わったもの。
- （注9）能登半島沖で発生した地震5回及び富山湾で発生した地震1回を含む。

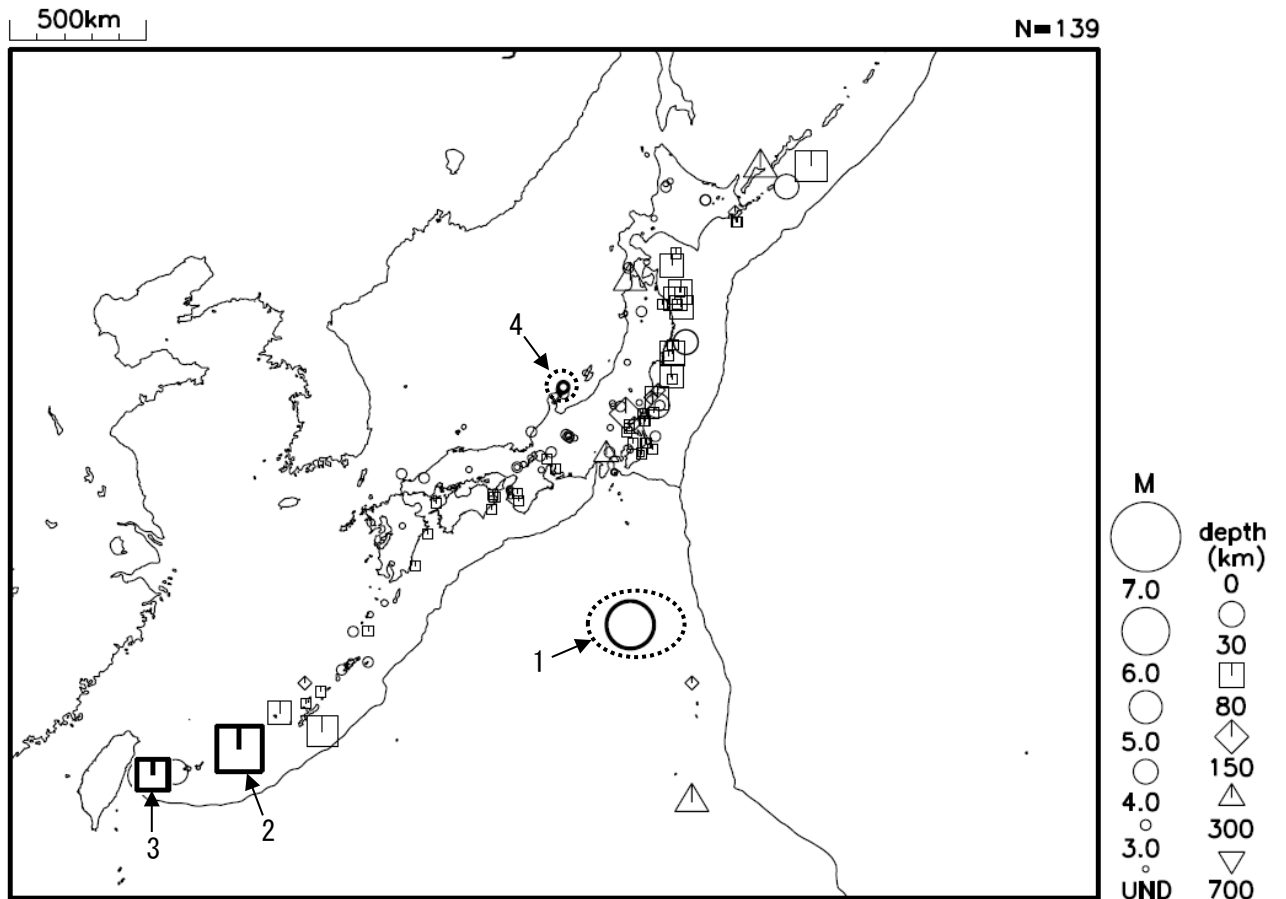


図2 令和5年10月に震度1以上を観測した地震（図中の番号は、表の番号に対応）

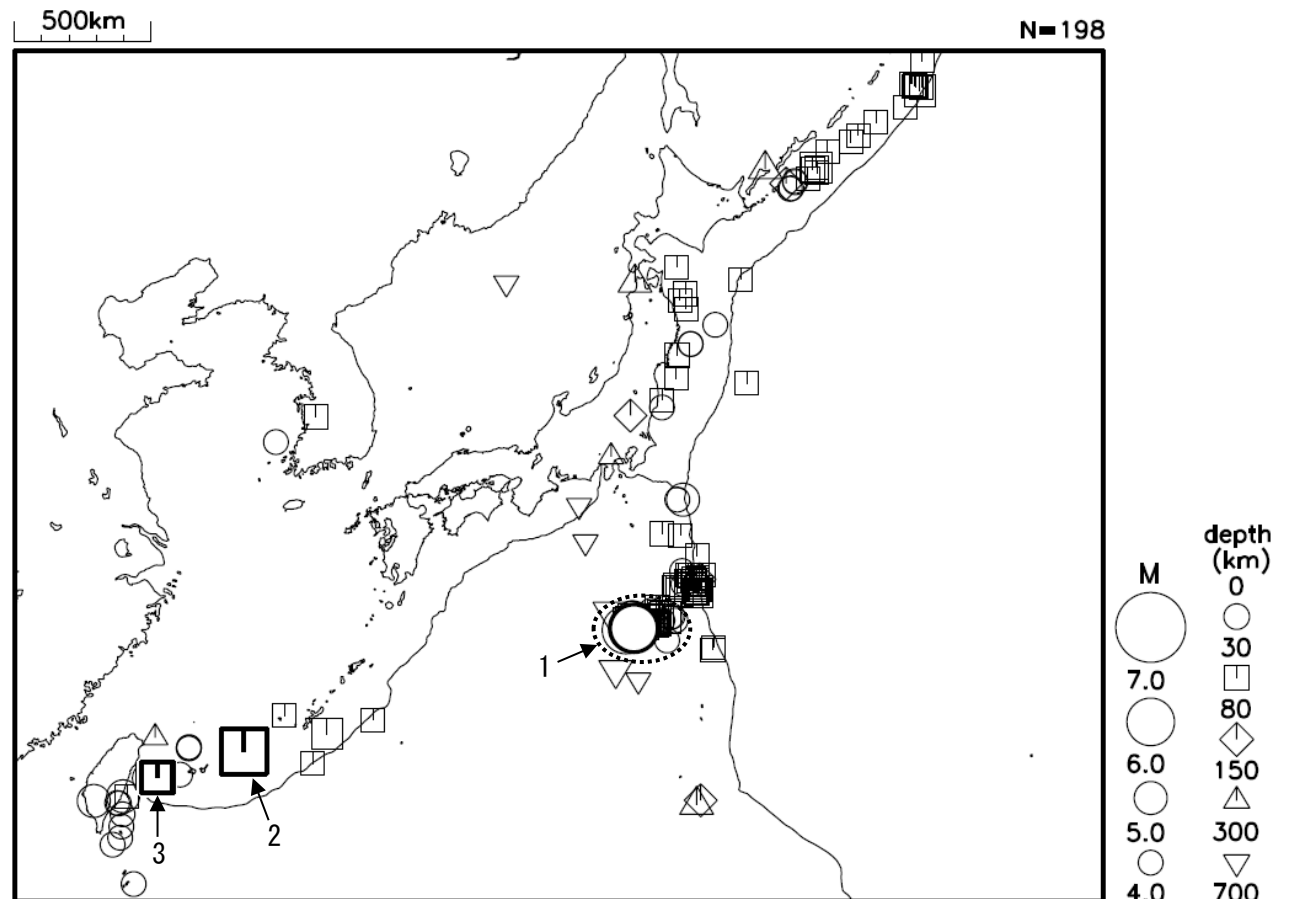


図3 令和5年10月に発生したM4.0以上の地震（図中の番号は、表の番号に対応）